

令和6年度 第10回 保土ケ谷区障害者自立支援協議会 当事者活動支援部会 議事録	
日時	令和7年2月12日(水) 17:30~18:30
開催場所	地域活動ホームゆめ ボランティアルーム
出席者	ときわ虹の会、SMILE、保土ケ谷区社協、生活支援センター、基幹相談
欠席者	
開催形態	公開(傍聴人: 名) ・ <u>非公開</u>
議題	<p>1 初夢まつりの振り返り</p> <p>○各参加者から感想</p> <ul style="list-style-type: none"> ・廊下で展示できてよかった。関心を持って話を聞いてくれる人がいた。中には涙ながらに話をする人もいた。当事者会の存在アピールにはなったのでは? ・来場者がゆめ関係者が多く、ブースに来る人は少なかったが、関心を持ってくれた人とは中身の濃い話が出来た。 <p>①昨年、福祉教育で訪問した学校の生徒がブースを訪れた。父も会社に聴覚障害者がいてアプリを使ってコミュニケーションを取っている。</p> <p>②福祉関係者から聴覚障害者への対応に困っている事例の相談を受けた。支援ツールとして“電話リレーサービス”を紹介。契約等、難しい説明が必要な時に役立つ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・当事者サークルによるダンスステージが好評。ステージと客席との距離が近く、一緒にダンスに入ってくれる人もいて、演者も充実感をもって参加できていた ・顔見知りの利用者が2名訪れていた。 ・電話リレーサービスの存在を初めて知った。署内でも支援ツールとして共有した。 ・イヤマフの体験が好評。購入方法を聞いていく人もいた。 ・ブースを訪れた育児で悩んでいる保護者の中に涙ながらに子育ての大変さを話す方がいた。辛さを共有できる場の必要性を再認識。 ・気持ちの温度計(気分の視覚化)ツールに関心を持つ方が。書籍よりも実用品に関心を持ってみる方が多かった印象。 ・発達障害の事実を隠し“障害を治す”という考えでこどもに接してきたが、現在二次障害に直面している。本人よりも親が潰れそうになった時、当事者会に参加できた事で救われた。本当に良かったと思っている。まだまだ同じ悩みを抱えている保護者がいると思うと、普及啓発を積極的に当事者会の普及啓発を行っていききたい。 ・祭りの情報が行き届いていない地区があった。周知方法や周知エリアについて再検討が必要か? ・ブースとして用意された部屋が狭かった。通りがかった沢山の人の目に入るので、オープンスペースにブースを設置した方が良いと感じた。 <p>2 次年度の計画について ※別紙あり</p> <p>○具体的な企画案、計画に対する意見</p> <ul style="list-style-type: none"> ・“電話リレーサービス”の出前講座。 ・まずはお互いを知る目的の茶話会。“地域に向けて”の前に身内がお互いを知る機

会は必要。例えば身体障害を専門とする支援者は他の障害（知的、精神、発達）の支援については良く分からない人も多い。加えて、内輪で盛り上がるだけで終わらず、その内容を地域に還元する取り組みや仕掛けも並行して考えたい。

- 広く地域住民をターゲットとするなら 初ゆめまつり は良い機会。
- 新たな企画よりも既存の枠組み、資源を活かして活動すべきでは。防災拠点の話や初ゆめまつり等、まずは少しでも障害のことを知っている人をターゲットにして、部会活動を周知する。
- 障害に関する普及啓発をしやすい地区を洗い出し、地元住民の力を借りて普及啓発を行うべく、ベースとなる関係作りを目的とした活動（会議や連絡会への出席等）を行う。社協に相談の上、民生委員や民児協へアプローチは可能。



（次年度に向けて）

当事者活動支援部会に期待される役割、活動の方向性を事務局に問い、部会の現状を見直す。

数年後、地域に向けて地域と協働して何らかの大がかりな発信活動（以前の映画上映のような）に発展させることを目指し、次年度はその第一歩目、基礎固めとなる活動を行う。

6月は支援者、当事者問わず区内事業所へ参加者を募り、10～15名規模の交流会を実施したい。

次年度も 初ゆめまつり への出展を予定。その他の企画については改めて検討。

次回：令和7年3月12日（水）17：30～

活動ホームゆめ2F ボランティアコーナー